

第2 平成15年度決算の状況

平成15年度の決算は総じてどうでしたか。

歳入面では、県税収入が過去最大の落ち込みとなった(対前年度比 12.0%)昨年度より更に減少(対前年度比 1.4%)しているものの、景気の回復とともに法人関係税(法人事業税、法人県民税)が増加(対前年度比+5.7%)に転じるなど一部に明るい兆しも出てきました。しかしながら、地方交付税を加えた一般財源では3カ年連続で減少するなど依然厳しい状況が続いており、歳入総額は5,924億円(対前年度比 7.8%)となりました。

歳出面では、平成4年度以降、国の経済対策に呼応し、積極的に社会資本の整備に取り組んできましたが、県税収入や地方交付税が伸び悩むなか、近年は抑制しつつあり、平成15年度は新県庁舎整備の完了等もあり減少(対前年度比 18.6%)しています。しかしながら、全国的にも公共投資は抑制傾向となっており、本県は全国に比して依然高い水準を維持しています。

また、職員数の削減や給与引き下げによる人件費の減などにより、歳出総額は5,852億万円(対前年度比 7.9%)となりました。

その結果、歳入から歳出を差し引いた形式収支は、72億円の黒字、さらに翌年度へ繰り越す事業のために確保すべき財源を除いた実質収支は、8億円の黒字となりました。

これは、昭和52年度以来27年連続の黒字となります。

平成15年度決算における経常収支比率85.4%(全国89.1%)や起債制限比率10.0%(全国12.5%)は全国に比べ健全といえますが、今後、国の経済対策に呼応して発行した県債の償還が本格化することや、高齢化社会の進展による医療・介護関連経費といった扶助費など義務的経費の増加が見込まれるなど、極めて厳しい状況が予想されるため、行財政改革を積極的に推し進め、財政の健全性を保つことが急務であると考えています。

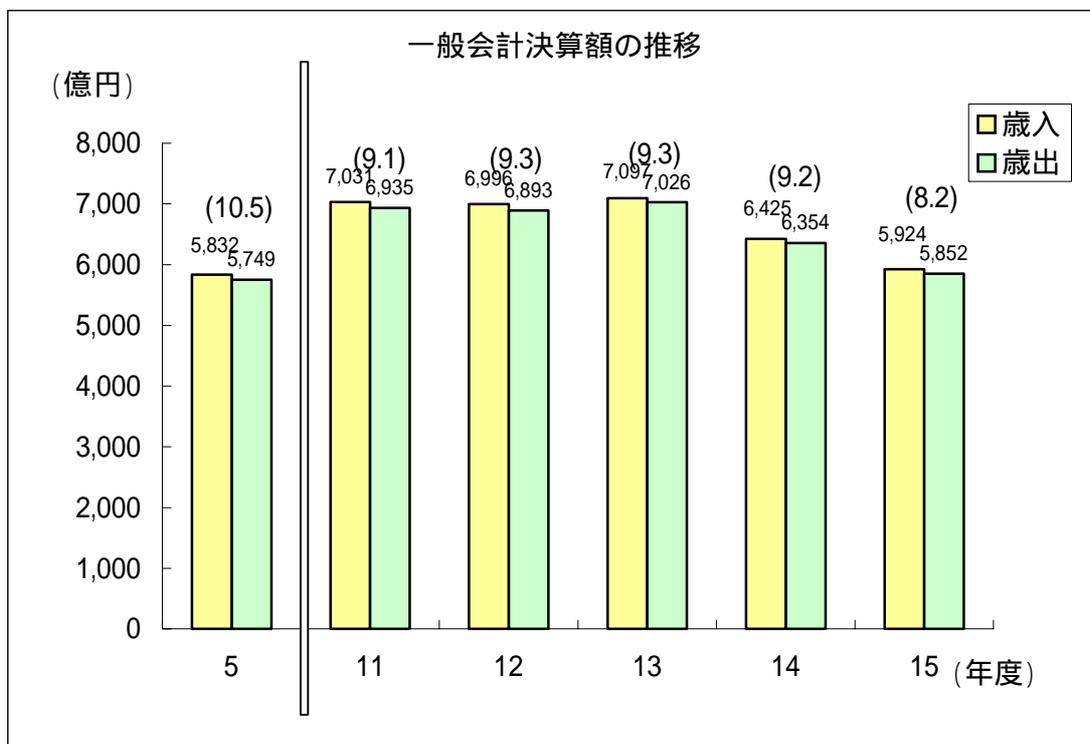
平成15年度一般会計決算の状況

印減単位:千円、%)

区 分	平成15年度 決算額 (A)	平成14年度 決算額 (B)	増 減	
			額(A)-(B)	率 $\frac{(A)-(B)}{(B)}$
歳 入	592,397,947	642,496,243	50,098,296	7.8
歳 出	585,241,420	635,407,008	50,165,588	7.9
歳入歳出差引収支 (形式収支)	7,156,527	7,089,235	67,292	0.9
繰越明許費・事故繰越の翌年度への繰り越すべき財源	6,333,950	6,172,972	160,978	2.6
実 質 収 支	822,577	916,262	93,685	10.2

(注1) 端数整理により、計数が一致しないことがあります。

(注2) 歳入は、借換債を除き、歳出は、借換債充当公債費を除きます。



(注1) 数値はすべて四捨五入しています。

(注2) 歳入は、借換債を除き、歳出は、借換債充当公債費を除きます。

(注3) グラフ上の()書は、実質収支です。